

平成25年度 終了評価書

- 研究機関 : (株)NTTドコモ、NEC(株)、富士通(株)、東北大学
(株)日立ソリューションズ東日本
- 研究開発課題 : 大規模災害時における移動通信ネットワークの動的通信制御
技術の研究開発
- 研究開発期間 : 平成 23 年度～24 年度
- 代表研究責任者 : (株)NTTドコモ 荒川 賢一

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価 A

■ 総合評価点 : 22点/30点

(総論)

短期間であったが当初目標を上回る成果を上げている。今後の商品化、社会展開に期待する。

(コメント)

- 大きな予算であったので、波及効果、後継プロジェクトだけでなく、成果そのものの直接導入を期待したい。
- これをきっかけに更なる高い目標に向けて研究開発を行うとともに、一刻も早い商用化、そして海外展開を図って頂きたい。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 4点

(総論)

タイムリーな研究開発であり、目標も明確である。

(コメント)

- 近未来に巨大地震等の発生が予測される現状に鑑み、社会のライフラインである移動通信ネットワークの耐災害性強化の研究開発は重要かつ喫緊の課題である。
- ネットワークの信頼性に対する期待が高まっている一方、トラフィック急増対策については当初計画と大きな変化はない。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 3点

(総論)

大規模プロジェクトであるが、適切にマネジメントされている。

(コメント)

- 代表研究機関による各研究機関の研究内容把握・週単位の実施計画の作成は適切である。
- 研究開発部門のみならず事業部門との連携体制構築など評価すべき点も多い。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

短期間にもかかわらず、当初目標を上回る成果を上げている。

(コメント)

- サービスごとの優先度に応じた制御等の手法を用いて、短期間で目標以上の成果を上げている。
- 大災害時の携帯電話の疎通率 25% (処理能力 5 倍) の目標値に対して、5.6 倍の処理能力達成を実証実験で確認するなど当初目標を上回る成果を得ているほか、災害時に役立つ重要なアプリまで開発している。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 4点

(総論)

学会での発表、標準化活動、教育等多くの面で成果を上げている。

(コメント)

- ONF や NFV などに対する国際的な標準化活動が評価できるほか、国内での普及啓発活動にも見るべき点が多い。
- 期間が短かったにもかかわらず、すでに ONF 等での標準化にかなり着手している。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 3点

(総論)

重要な技術であるので、早期の導入、社会展開が望まれる。

(コメント)

- 短期間での開発であり、早期の社会実装は容易ではないと思うが、重要な技術であるので早期の導入を図って欲しい。
- 商品化に向けたロードマップの作成は評価できる。ただ、29.9億円という国費が投入されたプロジェクトに鑑み、一刻も早い商用化に向けて更なる努力を期待する。
- 今後の展開予定も明確に示されている。